

「世界平和祈願祭・祖霊大祭」、おめでとうございます。

今年も本格的な夏を迎えておりますが、全国各地からようこそ聖地にご参拝くださいました。

今朝は、広島において世界平和への祈念式典が執り行われ、9日には長崎において執り行われます。

私も、今朝方、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、全てを主神に委ねさせていただきました。

ただ今は、私共のうちに生きておられる父母先祖の方々を始め全てのものと共に、「月次祭」に併せまして「世界平和祈願祭」と「祖霊大祭」を真心込めて厳かに執り行わせていただきましたこと、明主様に心より感謝申し上げ、主神をお讃え申し上げたいと存じます。

また、教主様には、酷暑のみぎり、ご公務極めてご多端の中を本日の祭典にご出座賜りましたこと、そして、私共のために篤いお祈りを捧げてくださり、全てのみ教えの源にある主神のご意志を求めてご教導くださいますこと、誠にありがたいことと心から御礼申し上げます。

さて、今年の「祖霊大祭」の折、教主様は、

主神は、私どもを地上にお遣わしになる前、霊界と呼ばれる、すべての創造の原因の世界である天国において、私どもを、そして、すべてのものを生んでくださいました。

ですから、私どもの中には、主神の命があります。天国があります。

と、このようにお示しく下さり、そして続けて、

このことを私どもが最も知らなければならない大切な事実として信じ、自分の中におられる先祖の方々と共に認め、認めさせていただいたことを、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、主神にご奉告申し上げる務めがあると思います。

そして、このようにして、主神にご奉告させていただくことが、先祖の方々を長い眠りから目覚めさせ、救い出すみ業にお仕えすることであり、

先祖と共にある自分自身も、主神の命に目覚め、永遠に生きるものとならせていただくことになるのではないのでしょうか。

教主様は、昨年このようにご教導くださいました。

私は、このご教導を通して、『万人を救ふといふは永遠の生命いのちの道を諭ゆるにあり』という明主様のお歌を思い出すとともに、ここで明主様がおっしゃる“万人”の中に、私共のうちに生きておられる全ての先祖の方々も私共自身も含まれていることに、あらためて思いを馳せました。

そして、私共だけではなく、全ての先祖の方々にとっても、永遠の生命の道である「神の子たるメシア」の道を知ること、それが救いなのだと思わせていただいております。

私共は今、「神さま、あなたは生きています。わたしの中で、生きています…」という「祈りの言葉」を大切な想念の営みとして実践させていただいておりますが、私は、自分の中に生きておられる先祖の方々と共に実践させていただいていることを、決して忘れないようにしなければと思わせていただきました。

さらに、私は、私共のうちにある主神の永遠の命に心に向けさせていただくということは、その主神の「大光明」の光が、私共をご自身の子供として新しく生まれさせるという主神の真の愛が、そして、「メシアの御名みな」に込められた計り知れない主神の赦しが、これら全てが私共のうちに存在することを、実感がなくてもまず素直にお受けさせていただくことなのではないかと受け止めさせていただきました。

私は、このように神様にご奉告申し上げる営みを積み重ねる中、自らの心に新しい喜びが生まれるとともに、このままでは誠に申し訳ないと思わせていただくようになり、神様に対する恐れ多さの一端にまた一つ気付かせていただきました。

また、教主様は、今年の「祖霊大祭」の折、次のようにもお導きくださいました。

明主様は、お歌に、「永遠とことわに冬なき夜なき天国に世人救はむはや来れかし」とお詠みになり、“冬もない、夜もない、永遠の世界である天国があなたがたの中にあるのだから、その天国に早く帰って来なさい。迎える準備はいつでもできているのだから、と仰って、一人でも多くの人が天国に

立ち返ってくるようにと呼びかけてくださっているのではないのでしょうか。

教主様は、このようにお示しく下さいました。

また、教主補佐は、専従者との懇談会において、度々、“皆で天国の家族になろうね、”とされています。

私は、主神が今明主様を通じて私共一人一人に対して、畏れ多いことではありますが、天国の家族になろうねとおっしゃってくださり、「光のお言葉」をもって呼び掛けてくださっているように受け止めさせていただいております。

私は、この神様の呼び掛けを素直にお受けし、「祈りの言葉」をもって少しでもお応えさせていただくことが、私共と私共に繋がる全てのもものが天国に立ち返らせていただくことであり、そして、このことこそが、私共にとっての本当の世界平和祈願であり、最大の感謝慰霊になるものと固く信じております。

私共は、「大光明」のご神体と「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」の御神名をお受けしたものと、私共のうちに生きておられる全ての先祖の方々と共に、明主様がお示しになっている救いが全く新しい救いであることに、より一層目覚めさせていただきたいと思えます。

そして、この全く新しい救いが全てに及んでいるという「天国の福音」をまず自らが全身にお受けし、一人でも多くの方にお伝えする“①之光教団の布教、”である“想念の御用、”に、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を通して、一生懸命お伝えさせていただきましょう。

それでは、ただ今より教主様のお言葉を賜ります。

私共は、本日教主様のご教導くださいますことを大切に受け止め、全てのみ教えの源にある主神のみ旨・ご意志に目覚めさせていただき、今年後半のご神業奉仕をもってお応えさせていただきたいと存じます。

本日も、こうしてご一緒に、明主様と共にあるメシアの御名<sup>みな</sup>にあつて、全ての先祖の方々と共に主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。